

# 愛宕山



平成30年6月26日

発行者 教育推進課 学校教育担当

(内容へのお問い合わせ ☎ 32-6116)

6月も半ばを過ぎましたが、現在、学校支援訪問や市町村支援チーム訪問が毎日のように実施されております。本年度の学校支援訪問は、市町村支援チーム訪問と同様に「個別のフィードバック」や「校長先生へのフィードバック」を位置付けてくださる学校が増えてきたため、一人の先生の授業を1時間ずっと参観させていただく機会が多くなりました。

私共といたしましても、短時間だけ授業を参観しての指導助言よりもずっと先生方に寄り添って話ができますので、大変ありがたいことであると考えております。もちろん、各学校の「支援訪問で何を解決するか」という思いや考えには違いがありますので、一概にこの方法がよいというわけではありませんが、少なくとも授業改善という視点で支援訪問をとらえる場合は、有効な方法であると考えております。

今後もまだまだ支援訪問は続きますので、我々も張り切って訪問させていただきます。よろしくお願いいたします。

## 全国学力学習状況調査より

次に示す2つの計算問題のうち、どちらかが全国平均を大きく上回っています。どちらだと思いますか？(ちなみに、①の全国平均79.4点 ②の全国平均69.2点)

- ①  $10.3+4$       ②  $5\div 9$ (商を分数で表す)

①の県平均が74.8点、②が81.0点ですので、正解は②ということになります。

なぜ全国と宮崎で全く反対の結果になっているのかを考えてみると、今後の授業改善の方向性が見えてくるように思います。

我々は、①については位取りを間違える児童が多いことを知っていますし、②は公式のように覚えさせることで多くの児童ができるということを知っています。つまり、①についても教師が「位を間違える人が多いから気を付けて計算させる。」ということ意識して、その間違いがないように工夫して指導すれば、正解を導く児童が増えるのではないかとことです。

過去の問題等から、それぞれの学習内容において何を身に付け、何を問われる問題なのかを知り、そのことを意識して指導することが、授業改善につながるのではないかと考えています。

また、英語については次のような問題があります。□の中に自然な会話になるように3語以上の英文1文を書くという問題です。

Hiroshi: We have a recycling day next Sunday.

Mike: Oh, really? What do you do on that day?

Hiroshi: We take bottles to the park. □ A

Mike: Sure.

単語を知っているとか文法を知ってるだけでは答えようがありませんね。

ちなみに、正答例は次の通りです。

(Can you help us ?)(Can you come together ?)  
(Let's go together .) 等々

## 授業改善のポイント【子供の誤答を活かすテクニック】

先日、あるスーパーティチャーの授業を見せていただきました。ある子供が間違った答えを口にしました。その先生は、「いい間違いをしたね。○○のことを忘れていたね。でも、これで次は間違うことはないね。」と声を掛けました。

間違っているとしてもそれが大事にされれば、子供たちは思いっきり学習に打ち込めると感じました。意見を交流させる上では、多くの意見が出されると盛り上がるので、大切なことだと思います。

子供たちは、「間違った  
らどうしよう」と思わ  
ないで発表してる様子だ  
つ  
たワン！



問い合わせ先：黒木伸郎